

令和7年度 学校関係者評価委員会評価報告 令和7年度 学校関係者評価委員会

日時：令和8年3月28日（土）13:00～15:30

場所：十全看護専門学校

学校関係者評価委員

桃山学院大学教育研究所名誉所員 岡田 千歳

愛媛労災病院 看護部長 高橋 令子

愛媛大学医学部附属病院 副看護部長 山岡 多恵

[総 評]

昨年度に引き続き、看護専門の立場から高橋令子氏・山岡多恵氏による評価、教育機関としての課題など、各委員からの評価を総合し、以下の通り報告する。

最初に非常に嬉しい報告があった。本年度第 115 回看護師国家試験に全員合格（合格率 100%）を達成したことである。昨年に続いて2年連続の快挙で教職員の努力の賜物であり高く評価する。重ねて、積善会の方から、傘下の全ての諸機関も同様に国家試験 100%の合格率であったことが報告された。諸機関が揃って100%の合格率達成は、7年ぶりとのこと。本当に嬉しい報告で、貴校を含め全機関が看護師養成に努力し、高い水準を保っている事の証と称賛する。

さらに、昨年度の大きな課題であった入学者の募集については、従来の方法に加えて総合型選抜入試、オープンキャンパスなど種々の広報活動を工夫した結果、目標の定員 30 名（充足率 100%）を確保できた。定員充足は、経営面にも大きく影響する問題である。これも本当に喜ばしく、今後の募集活動にも大きな励みになると思われる。

一方、本年度は上記の通り多くの素晴らしい成果をあげることができたが、それを実行し成果に結びつけた教職員の並々ならぬ熱意と努力に敬意を表する。通常の教科指導に加えて、課外指導や実習指導の時間調整など、過重な負担や激務は想像に難くない。隣接する十全総合病院との連携や多くの非常勤講師などの応援を頼みながらも、常に張り詰めた一年間であったと推察する。今後もこの好結果を継続するためにも、是非、喫緊の課題として教職員の増員を検討していただきたい。

最近の近隣の医療機関に関する動向について、看過できない問題も表面化してきている。まず、医師や看護師の人材不足、医療内容の複雑化、医療機器の高度化と高額化、経営上の問題、さらに中核病院の規模縮小の噂など。こうした厳しい時流の中で、貴校のように非常に卓越した優秀な人材を送り出す養成機関は、地域医療にとっても貴重な存在と言える。是非、今後ともその力を十分に発揮できるよう願っている。

[特筆すべき高評価の項目について]

1. 入学生の定員（定員 30 名）充足

昨年度からの大きな懸案事項であった学生募集について、2026 年度の入学生が定員 30

名、充足率 100%を達成することができた。非常に喜ばしい結果であると高く評価する。

この成果の背景には、早期の囲い込み、指定校入試制度の拡大、総合型入試制度の新設、オープンキャンパスや参加者のアンケートなどから受験生のニーズを丁寧に分析し、募集活動に取り入れた結果である。今後ともこの経験を活かして、指定校や関係諸機関との連絡を密にし、継続していただきたい。

2. 専任教員の自己評価

毎年の評価委員会で、専任教員の担当教科に対する自己評価が発表されている。昨年度の評価報告にも記したが、担当者にとっては非常に厳しい項目である。しかし、それを押して冷静な自己評価を公表し、欠点を洗い出し、次年度に改良して授業に臨むことを長年継続している。この自己評価の継続で磨き上げた実力が、貴校の教育水準の高さを裏付ける大きな原動力となっていると高く評価する。

3. 学生の学習過程における自己評価

専任教員と同様に、毎年、在校生に対しても学習段階に応じてその成果を冊子にまとめて公表している。自己評価の学生版といえる。今年度は、41期生「宣誓式に寄せて」「一年間の学びを終えて」40期生「事例検討抄録集」39期生「看護研究Ⅱ 発表会（事例研究・看護研究）」「卒業に寄せて」がまとめられた。

この冊子は、学生にとっては3年間の学習成果や自身の進歩、考え方の変化、看護師へ向かう姿勢などが明確化されており、貴重な自己学習史と言える。さらに大切な事は、他の学友たちや先輩・後輩たちの文章を読むことによって、異なった多くの意見に接する事、その中から励ましや気づきを得ることができる事である。学習効果の面でも非常に有意義であり、高く評価する。

また、この冊子は学生ばかりでなく、ご家族や実習などに関わった外部の関係者にとっても、それぞれに得ることが多い。数量の問題もあるが、学生の出身校など広報活動の一環としても役立てていただきたい。

4. 十全総合病院との連携

隣接する十全総合病院とは同じ法人であり、実習や講師の派遣などの協力体制が非常に良好に行われている。貴校が少ない教員ながら、円滑に学習が進められることは、この協力体制が大きな支えとなっている。また、学生にとっても移動の便もあり、講義で教わった先生に病院の実習でも会えるという、非常に恵まれた環境である。

こうした利点を生かして、将来の地域医療を担う看護師育成のために、今後とも良好な関係が続けていただきたい。

[今後の問題点]

1. 教職員不足の問題

この数年、毎年の如く教職員不足が課題となってきたが、なかなか、解決に至っていない。

現状として、本年度は70名の非常勤講師を依頼し、隣接する十全病院との良好な連携のもとで授業が進められてきたが、それでも教員一人が148時間担当している状況である。IT教材などの活用を取り入れても、やはり「生身」の人間に関する科目が多く、習得に時間がかかる。さらに、入学時の学力差の問題も無視できない。講義の水準まで引き上げるための課外指導、国家試験前の指導など、教職員は常に過重な負担を強いられている。

地域医療機関の人材不足が懸念されている状況からも、貴校の果たす役割は非常に大きい。期待に応え得る人材の育成のためにも、是非、早急に教職員の増員をお願いしたい。

[個々の項目について]

I. 教育理念・教育目的

教育理念や目的を踏まえた授業内容や実習を組み立てており、学生の個性も考慮した支援が充実している。今年度も全員が揃って卒業ができたこと、さらに第115回看護師国家試験に全員合格できたことは素晴らしい成果である。

II. 教育目標

教育目標に掲げている看護の基礎的能力を養うことが出来ている。学生アンケート結果からも教員支援の質が高いことが伺え、教員が学生に寄り添った支援を実践し、学生の成長に繋がっている。また20か所に及ぶ実習施設やボランティア活動を通してコミュニケーション能力や多職種との連携・協働する力を育むことが出来ている。環境の異なった人々との交流は、今後の活動の上でも大いに参考になると推奨する。

III. 教育課程経営

3年間という限られた時間の中で効果的にカリキュラムが計画されている。臨地実習場所に関しては、十全総合病院を中心に外部実習場所も確保され地域に根付いた充実した実習内容となっている。しかし、前項「今後の問題点」でも記したが、教職員8人では非常に厳しい。早急に負担軽減をお願いしたい。

IV. 教授・学習・評価過程

地域包括ケアシステムの理解については、「地域・在宅看護の場と制度」の授業を前半と後半に分け、その間に実習を通して理解が深まるように授業構成を変更され成果があったと考える。段階的に学習を継続し、これからも重要な役割を担う地域・在宅看護の理解と関心を深めてほしい。

一方、統合実習では、二つの課題を同時に遂行することが難しい学生が多く、実習形態を検討されている。しかし、教育目標にもある「保健・医療・福祉システムにおける看護の役割を理解し、多職種と連携・協働して看護を提供する」を達成するためには、学生のレディネスを踏まえつつも、多重課題に対応できる看護師の育成が不可欠である。今後はその能力を育む教育的取り組みをさらに推進していくことが望まれる。

また、看護研究は事例検討と看護研究に分かれて進められ、事例検討では文献を活用した

考察がなされ指導教官の多大な支援があり、完成できた成果物と考える。しかし、スケジュール管理が難しく、対象の理解や科学的根拠に基づくアセスメントが不足している現状があるため、時間管理と病態生理の学習を深め、次年度に活かして欲しい。

重ねて、看護研究は「身体的拘束の実態と看護師の意識」という看護界でも関心の高いテーマで細やかにまとめられていた。指導された教官の助言や支援を活かし、看護学生として倫理的問題に向き合い、学習を深めていくことの重要性と達成感を実感でき、有意義な看護研究となったと考える。次年度からは事例検討のみとなるが、研究的視点を養うことができるよう指導教官の継続した支援が必要と考える。

V. 経営・管理過程

経営において、収入源を増やすためには受験者・入学者を増やすことが必要であり、その為の戦略的広報活動をされている。また、教員による丁寧な学習支援は学生・保護者から高い評価を受けており、学校の魅力向上に寄与している。

本年度は、受験者数・入学者数ともに増加し、入学予定者が定員の30名を確保できたことは非常に喜ばしい。在校生や保護者への広報活動については、学生を通じた情報提供が主体となることは想定内であるため、ホームページやInstagramを閲覧するよう、入学時に説明するのも一案と考える。

VI. 入学

近年の少子化に加え大学志向の高まりにより専門学校の閉鎖が相次ぐ中で、令和8年度の入学予定者が定数に達したことは成果である。この背景には、前述の「特筆すべき高評価」の項でも述べたように、教員の細やかな学習支援が学生や保護者から高く評価されていること、さらにInstagramやオープンキャンパス等の広報活動を戦略的に行っていることが大きく影響していると考えられる。これらの取り組みが学校の魅力を効果的に発信し、入学者獲得に直結している点を高く評価する。既に次年度に向けた募集の取り組みを検討されており、継続して学生が確保されることを願う。

VII. 卒業・就職・進学

2年連続して看護師国家試験合格100%という大きな成果となった。教員の方々が学生に寄り添って支援された成果と考える。国語や理科といった基礎学力が不足し、学習する方法から指導しなければいけない学生も増える中、3年間学生を支え続ける教員の方々の根気と努力に頭が下がる。

また、卒業生との交流や情報交換の場があることは、後輩育成にもつながり良い効果を上げている。今後とも、在校生と卒業生が共に励まし合って、貴校の校歌にもあるように「日々研鑽を怠らず」医療の世界で活躍してくれることを願っている。

VIII. 地域社会・国際交流

教科外活動として、ボランティア活動に積極的に参加している。この継続的な活動が評価

され、令和7年度愛媛県優良青少年団体として知事表彰を受けられたことは大変喜ばしい。

また、学年間の交流を強化する基盤づくりにより、さらなる人間力の向上、社会人基礎力の向上が期待される。

一方、学生からの教科外活動に関する負担感があるという意見については、活動の意義を理解し積極的に参加できるよう働きかけていただきたい。

IX. 研究

教員は講義、実習担当、教科外活動など多忙を極めている中で、NEOによるプチ研修を実施され、教員の学ぶ環境整備にも尽力されている。今後とも、各自の研鑽にも目が向けられるよう希望する。